

基本目標Ⅱ 男女のエンパワーメントへの支援

重点課題1 エンパワーメントの機会の確保

【目標に対しての評価】 A・・・実施しており、成果をあげている B・・・実施しており、一定の成果をあげているが、課題も多い C・・・実施できなかった

| 施策の方向 | 具体的施策 | 施策対象者 | 担当課 | 平成25年度目標 | 評価 | 平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性) | 平成26年度目標 | H26機構改革による担当課 |
|----------------------|---|--|---|--|----|---|---|---------------|
| む生1、たき、める、子の力、支をも、育の | ①暴力防止プログラム(CAP)による学習機会の提供 | 学校 | 学校教育課 | 平成24年度未実施学校への学習機会を提供する。 | A | 小学校15校中7校実施した。(信太、三石台、清水、紀見、柱本、あやの台、城山台) | 25年度実施学校以外への学習機会を提供する。 | |
| | ②性別にとらわれない進路指導の徹底 | 学校 | 学校教育課 | 性別にとらわれず職場体験をすることにより、仕事の大切さとともに仕事をする人の思いや願いを知る機会とする。 | | キャリア教育(職場体験)の実施 全中学校実施(1日～3日間) 性別にとらわれることなく、生徒の希望を聞き、それに適したまたは近い分野の職種を選び体験できるようにした。 | 性別にとらわれず職場体験を本人の希望にそった職種ですすめる。 | |
| 2、男女のエンパワーメントの促進 | ①すべての男女が力を引き出し育むためのエンパワーメント講座の開設 | 市民 | 社会教育課 | エンパワーメントの要素を持つことを意識化し、幅広い対象となるよう講座、セミナーを開催する。 | B | 地域支援者養成講座(年5回) 思春期子育てセミナー(年5回) 教育環境支援プロジェクト公開講座 | エンパワーメントの要素を持つことを意識化し、幅広い対象となるよう講座、セミナーを開催する。 | |
| | | | 人権・男女共同推進室 | 講座・講演会などを開催する。 | | ちゃんへん。「あきらめない心」講演会で、夢をあきらめない気持ち、また自身の辛い思い出や経験をラップミュージックにのせ表現され、心に響く講演会を実施した。参加人数約500名、男:女=30:70 | 講演会実施、及び年5回の男女共同参画セミナーを実施する。 | |
| | | | 中央公民館 | ホームページ・市広報等に掲載し、若者を対象とした講座内容について検討する。 | | 実施なし | 8月開催の教育フォーラム分科会の講演「東日本大震災と社会教育」石井山竜平(東北大) ジェンダー視点を入れた講演にする。 | |
| | | | 紀見地区公民館 | 教養や健康などの色々な事業に加え、「介護教室」を新たに実施する。 | | 男女を問わず、すべての人が自らの力を引き出せるきっかけとなるよう、『大人の学びの場、紀見サロン(ケアメン:介護勉強会)』『人権講演会(50名)平和への権利～いのちと非暴力をてがかりにして』『母から子へ伝える郷土料理教室(10名)』『サークル発表会(165名)』『小・中の保護者対象学びの場として出前講座=4校交流会(全8回、135名)』『子育て講座(全5回、226名)』など開催し、男女を問わず多数の参加者を得ることができた。 | 個々の特性を活かし地域のために活動できる学びと機会を提供する。 | |
| | | | 紀見北地区公民館 | 音楽に親しんだり、外に出て体験できるような事業を実施する。 | | 平成21年より紀見北地区子育て応援隊が発足し、企画運営している「フレッシュママ交流会」でママ自身が自分の力を伸ばし、様々なきっかけをつかみ自分自身を見直す機会となるよう実施した。 | 継続実施する。 | |
| | | | 恋野地区公民館 | 地域の特色にあった事業を検討する。 | | 人権講演会“あなたはあなたでいい”(1回200名)等男女を問わず多くの参加があった。乳幼児学級(子育て支援年6回、自主的開催30回)他市からの参加もあり、自分たちで子育て支援講座を立ちあげるための支援もした。 | ジェンダー視点及び、地域の課題を取り入れた事業を考える。 | |
| | | | 学文路地区公民館 | 地域密着、各種団体との連携を深める。特に、参加の少ない学生や男性の参加を意識していきたい。 | | 子育て中の親子の交流の場、またお母さんの悩み相談の場として「乳幼児親子学級」を実施した。 | 「イクジイ」講座を実施予定 | |
| | | | 隅田地区公民館 | 地域における様々な課題に問題意識を持ち解決に取り組めるよう実行委員会の会員を増やす。 | | 乳幼児学級実行委員会の会員が、「地域で子育て」をめざし事業企画から実施に至るまで自らが主体的に取り組み、『おやこ夏まつり』(男性10名・女性40名・子ども70名・0歳～40歳台)『いのちを育む授業・中学1年生との交流会・3回実施』(男性3名・女性80名・中学生85名・子ども44名・0歳～60歳台)、男性参加を呼びかけ『みんなで一緒にミニミニ運動会』(男性5名・女性15名・子ども15名・0歳～50歳台)等を実施。また参加者で子育てを卒業した方が実行委員会会員になってもらえるよう促し、人材育成をした。 | 実行委員として様々な立場の方に加わってもらえるよう、地域の工夫が必要。 | |
| | | | 橋本地区公民館 | 健康に重きをおき、より多くの人が参加し、学んでもらえるよう企画する。 | | 子育て中の親子の交流の場として「乳幼児親子学級」を実施。年間49回、66組の親子の参加があった。また、乳幼児親子学級間の交流会、健康課主催の育児教室との交流会を開催した。 | 内容を改善し、平成25年度同様に 継続して実施予定。 | |
| | | | 西部地区公民館 | 「古典に親しむ会」を企画し、昔の人の物の考え方や、自己の教養を高める。 | | 男性の地域参画を目指し「テクテク散歩会」を開催。少しずつ男性の肩の力がほぐれてきているのを感じる。通算で150回を迎えようとしている。 | 継続実施する。 | |
| 高野口地区公民館 | 幅広く広報をする。講演会「共に生きる～一緒に住みたいまちを創っていきましょう～」、歴史教室「高野口ひすとりあ」を開設する。 | 人権講演会「トーク&ライブ～週末里親を体験し、そして学校開放～」(H25年11月17日実施)約70名参加 | 人権意識高揚のため人権講演会を持つ。歴史講座として世界遺産高野山町石道についてお話しいただく。 | | | | | |

| 施策の方向 | 具体的施策 | 施策対象者 | 担当課 | 平成25年度目標 | 評価 | 平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性) | 平成26年度目標 | H26機構改革による担当課 |
|-------------------|---|--------|---------------------|---|----|--|---|---------------|
| 2、男女のエンパワメントの促進 | ②悪質商法等による消費者被害や多重債務の防止支援 | 市民 | 市民生活環境課 | 消費者被害の未然防止のための啓発と多重債務相談のための司法書士会と協定を結ぶ。 | | ・自主事業(出張出前講座) ・委託事業を合わせ27会場(老人会やふれあいサロン等)で啓発講座を開催した。 ・消費者生活・多重債務の相談窓口を設置した。 | 委託・自主による啓発出前講座実施、消費者教育推進事業としての教育委員会との連携、相談事業の実施 | |
| | ③農林業従事者への生産・技術向上のための初心者研修の充実 | 農林業従事者 | 農林振興課 | ・伊都地域担い手育成補完システム研究会による摘蕾・摘果講習は、HP等による参加者の募集や開催に協力する。 ・市民農園についても、適宜利用者の募集を行う。 | | ・農業研修講座の受講者を広報及びホームページで公募したが、申込者が少なく、開講しなかった。 ・摘蕾・摘果講習の参加者募集について広報に掲載し、柿農家の労働力確保に繋がった。 ・市民農園の利用者についても公募のうえ決定した。 | 伊都地域担い手育成補完システム研究会による摘蕾・摘果講習 市民農園の運営 | |
| | ④各種職業能力の開発、資格取得、経営能力向上に関する情報の提供及び研修会の実施 | 市民 | 商工観光課 | 各種資格取得試験実施の情報を市ホームページに掲載する。 | B | ・資格取得試験実施の情報を市ホームページに掲載した。 | 各種資格取得試験実施の情報を市ホームページに掲載する。 | |
| | ⑤女性の起業への支援 | 女性市民 | 商工観光課 | 女性への起業支援を推進していく。 | | ・県の特定の融資制度(新規開業資金)を利用した中小企業者を対象に信用保証料の半分(上限10万円)を補助。制度については、市のホームページでの周知、市広報へ掲載した。 (経済団体等で組織された女性部会を通じての取組) ・他町村女性部との交流を行った。 ・各種イベント(まつせはしもと、紀の川橋本SUMMERBALL、桜まつり等)への参加をした。 ・商工会女性の経営知識向上の研修会を行った。 | 女性への起業支援を推進していく。 | |
| 援男3性、若者自立への中高年 | ①若者・中高年男性の自立への支援 | 市民 | 福祉課・健康課 | (健康課) 日曜の健診を取り入れる。 | A | (福祉課) 生活保護受給者に対して、就労を希望する場合や状態から就労可能者に対して就労支援を行い、また積極的に自立支援制度の利用を促した。 (健康課) 年2回若年者健診(18歳～39歳受診者232人)をととして健康意識の高揚や健康状態の改善を支援した。 | (福祉課) 引き続き就労支援を行っていく。 (健康課) 引き続き若年者健診や特定健診など日曜日開催する。 | |
| 4、高齢者・障がい者の自立への支援 | ①高齢者等の自立に向けての学習会等の開催 | 市民 | いきいき長寿課(地域包括支援センター) | 介護予防事業を継続実施し、地域との関わりをひろげる。 | | 介護予防事業として、高齢者グループの支援を行った。げんきらりー教室(筋力向上トレーニング自主運営教室)、ふれあいサロン事業への継続的な関わりを行い、介護予防啓発を通して、個々の相談等しやすい環境づくりを継続的に目指した。特にいつまでも元気で地域の中で自立し生活していくため、筋力向上トレーニング、認知症予防等について市の取組状況を報告しながら、自らできることを意見交換してもらう機会をつくった。 | 関係機関へのより細やかな、取り組み状況等を情報提供し、全地域で実施できるよう体制の充実をはかる。 | |
| | | | 福祉課 | 開催予定等市広報やホームページへ掲載する。 | | 各団体に委託して、障がい児者にあった様々なレクリエーション事業を実施した。(スポーツ、料理教室等)開催回数:55回参加のべ人数:584人 | 引き続き開催予定等市広報やホームページへ掲載する。 | |
| | | | 中央公民館 | OB、在校生からアンケートをとるなどをして、現状の課題等を把握する。 | | いつまでも元気に生活できるよう、年10回の講義と運動会、学芸会を開催した。 | OB、在校生からアンケートをとるなどをして、現状の課題等を把握する。 | |
| | | | 紀見地区公民館 | 『男の介護勉強会』と『ノルディックウォーク講座』を開催する。 | | 高齢者の生きがい作り、健康作り、学びの場の提供のために、『GG交流会』『歴史講座』等を実施した。毎月、高齢者を交えての交流会を行っている【語ろう会】や【転ばぬ先の杖】等のサークルがある。 | 高齢者が学ぶ喜びを感じ、前向きに取り組む意識を高める事業に取り組む。 | |
| | | | 紀見北地区公民館 | 脳卒中予防やリハビリテーションについての講座を開催する。 | | 自身の健康管理と将来の自立のために、「アカザの杖作り」(18人)、「笑いヨガ体験教室」(63人)、「健康吹き矢体験教室」(22人)を実施。健康意識の向上と将来を見つめる良い機会になった。 | 継続実施する。 | |
| | | | 恋野地区公民館 | 事業を広く広報する。 | | 地域の人々が中心となったサークルきりり恋し野は、毎週1回開催、インストラクター指導もあり体操も取り入れお互いコミュニケーションをとっている(44名登録)、音楽療法で生き活きと(1回55名)、折り紙を使った物づくりやあかさのつえづくりで25名の参加等色々事業を実施し、楽しく参加してもらった。 | 居場所づくりや生きがいづくりにつながる事業を実施する。 | |
| | | | 学文路地区公民館 | 健康や生き甲斐作りに留意し、講座や教室を開催する。参加しやすい、また意識しないうちに身につくような事業を考えていきたい。 | | 要介護者とならないために、ハイキングを取り入れた事業や体操関連サークルの支援、趣味を生き甲斐として楽しめるような教室「お茶」編み物「暮らしの歳時記」などを実施した。 | 健康づくりのハイキングやスポーツ、料理教室(イクジイ)の開講などを実施。定期的な健康講座を実施する。 | |

| 施策の方向 | 具体的施策 | 施策対象者 | 担当課 | 平成25年度目標 | 評価 | 平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性) | 平成26年度目標 | H26機構改革による担当課 |
|---------------------|----------------------|--------|----------|--|----|--|--|---------------|
| 4、高齢者・障がい者の自立への支援 | ①高齢者等の自立に向けての学習会等の開催 | 市民 | 隅田地区公民館 | 老若男女を問わず参加できるような内容を取り入れ実施する。 | B | 誰もが気軽に参加でき、生きがいを見つけ、健康を維持できるよう『料理講習会』(男性1名・女性10名・60～70歳台)、『病院健康出前講座』(男性9名・女性51名・60～80歳台)、『シニアヨガ体験教室』(女性46名・50～80歳台)、『笑いと健康体操』(男性12名・女性55名・50歳～80歳台)『アカザの杖作り』(男性1名・女性8名・小学生1名・10歳～70歳代)『グラウンドゴルフ大会』(男性60名・女性36名・小学生1名・12歳～80歳台)を実施。 | 老若男女を問わず参加できるような内容を取り入れて実施する。 | |
| | | | 橋本地区公民館 | 新たに「認知症」についての講座を実施する。 | | 高齢化社会の今、尊厳のある自立と地域での支えあいに役立つため事業を実施。「人権講演会 共に輝いて生きる」(71名、内男15名、女56名)「認知症を正しく知ろう」(全2回、44名、内男2名、女42名)「リフレッシュ講座」(全3回、54名、内男5名、女49名) | 高齢者の自立に役立つような講座を実施する。 | |
| | | | 西部地区公民館 | 「生きる」ことを今一度考えてもらうきっかけとなる人権講演会を実施する。 | | 植村牧場代表・黒瀬礼子氏より酪農業、農業の一次産業のしんどさ、大切さについて、そこで働く知的障害を持つ15人の仲間の悲喜交々としめの大切さ、やさしさを講演内容から感じた。 | 人権講演会を実施する。 | |
| | | | 高野口地区公民館 | 趣味などの生きがいをみつけられるよう、「ビデオカメラ撮り方講座」全10回を継続する。 | | 「ビデオカメラ撮り方講座」全10回実施 ミニウォーキング月1回年8回実施(7月、8月、1月、2月を除く) | 「ビデオカメラ撮り方講座」、「ミニウォーキング」など高齢者が健康かつ興味を持って参加できる講座を設ける。 | |
| 援5、ひとり親家庭への支援 | ①社会保障制度の拡充の要請 | ひとり親家庭 | こども課 | 母子自立支援員(嘱託職員)を配置し、窓口での相談から、問題解決につなげる。 | B | 母子自立給付金の活用を図る。窓口の相談を強化する。福祉課就労支援員と連携を図り、ひとり親の自立を促すための就業支援をおこなった。 | 母子自立支援員(嘱託職員)を配置し、窓口での相談から、問題解決につなげる。 | |
| | ②給付制度の充実 | ひとり親家庭 | こども課 | 母子自立支援員(嘱託職員)を配置し、窓口での相談から、問題解決につなげる。 | | 諸制度の普及と啓発を図り、母子家庭の生活の安定を図った。 | 窓口対応の際、制度の活用について促す。 | |
| | ③相談体制の充実 | ひとり親家庭 | こども課 | 母子自立支援員(嘱託職員)を配置し、窓口での相談から、問題解決につなげる。 | | 児童扶養手当の申請の際に、家庭状況等を聞きとり、必要があれば要保護児童対策地域協議会につなげる等、関係機関との連携もとりながら相談業務をおこなった。小中学校や幼稚園、保育園、学童保育所などと連携を図った。 | 母子自立支援員(嘱託職員)を配置し、窓口での相談から、問題解決につなげる。 | |
| 支の6 援自、立外 への人 | ①生活案内パンフレットの作成 | 外国籍市民 | 企画経営室 | 現状のホームページでの外国語表記で引き続き対応する。 | C | 和歌山県や関係団体から配布される外国語表記のパンフレットを室内ではあるが配備した。 | 特になし | |
| | ②相談体制の整備 | 外国籍市民 | 企画経営室 | 定期的な相談会を実施する。 | | 取組なし | 和歌山県と協力して相談会を開催する。 | |

重点課題2 グループ・ネットワークづくり

| 施策の方向 | 具体的施策 | 施策対象者 | 担当課 | 平成25年度目標 | 評価 | 平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性) | 平成26年度目標 | H26機構改革による担当課 |
|--------------------------|------------------------------------|--------------|---------------------|--|----|--|--|---------------|
| 1、互いに力を高め合うグループづくり | ①共通の問題・課題を抱える個人のグループづくりや既存グループへの支援 | 市民 | こども課 | 新こども園新設に伴い、子育て支援センターを増設する。 | B | 子育て支援センターを4カ所設置することにより、子育てに関する悩みなどを相談出来る仲間づくりに寄与した。 | 子育てサークル等への支援についても積極的に行うよう支援センターに働きかける。 | |
| | | | 健康課 | 団体への相談支援を行う。 | | 乳がん患者会と連携し、スーパー店頭において乳がん健診啓発のティッシュ配布を行った。(H25.10.10) | 引き続き年1回、乳がん患者会と連携し、乳がん検診受診勧奨の啓発を行う | |
| | | | いきいき長寿課(地域包括支援センター) | 介護予防事業として高齢者グループ支援を継続する。 | | 介護予防事業として、高齢者グループの支援を行った。げんきらりー教室(筋力向上トレーニング自主運営教室)、ふれあいサロン事業への継続的な関わりを行い、介護予防啓発を通して、個々の相談等しやすい環境づくりを継続的に目指した。特にいつまでも元気で地域の中で自立し生活していくためとして、筋力向上トレーニング、認知症予防等について市の取組状況を報告しながら、自らできることを意見交換してもらう機会をつくった。 | 継続実施する。 | |
| | | | 福祉課 | 相談窓口等についてホームページへ掲載する。 | | 市でもひきこもり支援検討会議をたちあげた。相談窓口等についてホームページへ掲載した。 | 引き続き相談窓口等についてホームページへ掲載する。 | |
| くワネ2 りー クト支 づ 援 | ①支援する人材や市民活動団体等のネットワークづくり | 市民 NPO団体等 | 市民生活環境課 | 橋本市社会福祉協議会へ市民活動サポートセンターの運営管理委託を行うとともに、施設の存在周知に努める。 | B | 事業については橋本市社会福祉協議会に委託。管理部分は直営になった。 | 指定管理運営委託 | |

重点課題3 エンパワメントにつなぐ相談窓口・情報提供の充実

| 施策の方向 | 具体的施策 | 施策対象者 | 担当課 | 平成25年度目標 | 評価 | 平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性) | 平成26年度目標 | H26機構改革による担当課 |
|----------------------------|-------------------|-------|-----------------------------|------------------------------------|----|---|--|---------------|
| 1、 相談窓口・ 情報提供の 充実 | ①女性のための相談窓口の整備・充実 | 女性市民 | 人権・男女共同推進室 | 担当各課と連携をとり、市民にわかりやすく周知する(H P、広報等)。 | B | 女性人材リストの整備、新規募集を行った。 | 女性人材リスト登録での人材発掘、研修を実施する。 | |
| | ②各種相談窓口の充実と連携 | 市民 | 福祉課・市民課・健康課・こども課・人権・男女共同推進室 | 担当各課と連携をとり、市民にわかりやすく周知する(H P、広報等)。 | | (福祉課) 関係各課の各種相談窓口と連携を取りながら業務を行った。 (市民課) 住民情報を扱う関係各課と連携をとる体制を整えた。 (健康課) 各種健診・相談・教室等を通じて様々な相談に応じることがあり、 その中で、知り得た情報で連携の必要な時には、関係課と連携して対応している。 (こども課) 相談関係機関と定期的に会をもち、対応充実に努めた。 (人権・男女共同推進室) 関係各課との連携をとりながら相談業務を行った。 | (市民課) 引き続き連携を取りながら各種相談業務を行う。説明会の開催。 (人権・男女共同推進室) 関係各課や関係団体の行っている事業の情報を集める。 (健康課) 継続実施する。 (こども課) 継続実施する。 | |